



発行所
〒107-0052
東京都港区赤坂7丁目
5番38号
公益社団法人
日本PTA全国協議会
発行人 後藤 豊郎
電話 03(5545)7151
FAX 03(5545)7152
ホームページアドレス
<https://www.nippon-pta.or.jp/>



この二次元コードをスマートフォンなどで読み取っていただきますと、日本PTA全国協議会のホームページにアクセスできます。

企画編集協力
日本教育新聞社

綱領

本会は、教育を本旨とし、特定の政党や宗教に偏ることなく、小学校および中学校におけるPTA活動を通して、わが国における社会教育および家庭教育の充実に努めるとともに、家庭、学校、地域の連携を深め、児童・生徒の健全育成と福祉の増進を図り、もって社会の発展に寄与する。

主な内容

1・2・3面

- ブロック協議会会長・協議会代表者会を開催
- 役員あいさつ
- 国内研修会の成果報告

4・5・6・7面

- 日本PTA全国協議会75年のあゆみ
- PTA活動の歴史を振り返る

8面

- PTA広報紙コンクール募集概要
- 三行詩コンクール募集概要
- 全国研究大会 川崎大会告知

ブロック協議会会長会・協議会代表者会を開催！

令和6年2月15日(木)に東京ガーデンパレスにて開催



全国の協議会代表者が参加



司会進行役の吉村昌之専務理事



能登半島地震の被災状況の実態を訴える石川県PTA連合会・宇田直人会長



各委員会の様子



文科省の家庭教育支援室からも参加いただいたPTA課題委員会

ごあいさつ



公益社団法人
日本PTA全国協議会
後藤 豊郎 会長

令和6年の事業年度が始まりました。新年度を迎えこれからの日本PTAの歩みについて、私の考えをお伝えしたいと思っています。

コロナ禍を経てPTAに対する考え方、風当たりは非常に厳しいものになりつつあります。全国の単位PTAでは入退会や会費、個人情報保護の取り扱いや行われる事業についての賛否、あるいは上

部組織の存在意義が問われ、「PTA不要論」という言葉がメディアで取り上げられることが多くなりました。

時に必要な取り組みが何なのかを目的とともに再認識する必要があります。

今、私たち日本人は幸せでしょうか。子供たちが未来に希望を持てる世の中を、私たち大人が建設していかねければなりません。そのためには、教育振興基本計画に謳われる「持続可能な社会の創り手」「日本社会に根差したウェルビーイングの向上」を、私たち大人の主体性のもとに担い実現していく必要があると思います。

昨年、日本PTAは創立から75周年を迎えました。戦後から今日に至るまで、日本における子供たちの教育環境において一定の役割を果たしてきたと自負をしています。しかし、社会が予測不可能な変化の時代を迎え、過去の実績の中には歴史的な役割を終えて、保護者の負担になることが社会問題として顕在化してきました。

今、不必要になった取り組みや事業とは何なのか。このことについてすべてのPTAが改めて向き合う時期に来ていると考えています。同

社会のために「言われたからやるやらない」ではなく、より良い社会を作るために「自分には何ができるのか」を考え実行することが重要ではないでしょうか。全国のPTA会員の皆様と共に歩んで参りたいと思います。よろしく願いいたします。

お知らせ

石川など4県市に支援金計4500万円

令和6年能登半島地震によりお亡くなりになられた方々のご冥福を謹んでお祈り申し上げますとともに、被災された皆さまに対して心からお見舞い申し上げます。



宇田直人石川県PTA連合会会長に目録を手渡す日本PTA全国協議会の後藤豊郎会長

公益社団法人日本PTA

ました。

全国協議会では、「令和6年能登半島地震」で被災された子供たちの教育環境支援等のために、1月12日より支援金の募金活動を行ってきました。3月22日時点で総額約4500万円が全国から寄せられ、4月9日に「支援金目録贈呈の会」として後藤豊郎会長が石川県PTA連合会の事務局(金沢市の県文教会館)を訪れ、支援金として合計約4500万円を贈り



石川、富山、新潟県と新潟市のPTA連合会の4氏と後藤豊郎会長

新潟県と新潟市に配分されました。

この度は、「令和6年能登半島地震支援募金」にご協力いただき、心より御礼申し上げます。

本紙は各校PTAに「校長・教頭用」「PTA会長・役員・広報委員用」「事務局員用」として配布しています。

新年度を迎え「令和5年度の活動を振り返って」、歩みを止めずに更なる前進を！

能登半島地震で幕を開けた本年の元日、波乱の時代の到来を象徴するかの出来事で令和6年が始まりました。世界的にもウクライナ問題の長期化や中東情勢の緊迫化といった世界紛争の激化など、不安要素の多い厳しい時代を迎えています。日本PTA全国協議会は「子供たちの未来の為に歩みを止めない」を合言葉に前進し続けています。いま、新年度を迎えるにあたり、「令和5年度の活動を振り返って」6人の役員の方々にご意見をいただきました。

理事 丹羽 寛美



より活動しやすいよう 全力で！

私が初めて小学校のPTA会長になったとき、私をここまで大きくしてくれた地域に恩返しをするために頑張ろうと決意したことを思い出します。自分が生まれ育った街で、卒業した学校でたくさん大人のたちが私を育ててくれたのかということ。時代とともにPTA活動も変化していますが、以前と同じように子供たちに寄り添うことは変わりません。これから子供たちの未来を見据えながら、近い未来がすべての方にとってPTA活動が有意義で実りのあるもの、共に学び成長していけるような活動をしていきたいと思っています。

理事 浦山 利博



家庭から学校・地域・社会の ウェルビーイングを目指して

令和6年度は、第72回日本PTA全国研究大会川崎大会を8月に開催する運びとなりました。川崎にとっても実行委員長としても初めての経験。反面、知らないことは力也と奔放なアイデア出しに始まり3年間練りに練って、経験者の方の薫陶を受け、開催準備を進めました。会ったこともない全国の方々と一緒に考える機会が、家庭・学校・地域から社会へとつながる縁の道を通じて共有したい。それが、日本PTA役員としての小生の思いです。

副会長 比嘉 里奈



令和6年度に向けて

すことにもなりました。今の時代、いろいろな情報を個人が簡単に得ることができ、その中で私たちは何が正しく、何が必要で、何が正しいのかを判断していかなくてはならなくなりました。そのため、一人一人に確かな判断力が必要です。それはまた、社会問題や人間関係などについて学ぶ場である本会が、一層重要な役割を担うことにもなりました。私たちの目的は、子供たちの健やかな成長と教育環境の向上、そして社会教育及び家庭教育の充実・発展です。これを持続可能にするためには、より自己研鑽ができる本会であり続けられるように、今後も尽力していきたいと思っています。

理事 太田 敬介



アンケートにより 今後のヒントも！

3月26日から5日間、沖縄で開催された国内研修に参加しました。全国から集った約100人の中学2年生や地元沖縄の学生リーダーと寝食を共にし、4泊5日のプログラムを実施する中、5日間であんなに成長し、別れ際に涙する姿を見ると、本研修の素晴らしさを実感しました。一方、準備の煩雑さやかかる経費とのバランス等、課題も多く見られました。今後、持続可能な国内研修の在り方は、早急に議論すべきことだと考えます。また、日本PTA戦略委員会の委員長を務め、テストとして九州地区に限定したPTA会員を対象としたWEBアンケートを実施し、約2万8千

副会長 宿南 洋一



誠実さと柔軟性を持って行動

今年度は副会長として、日P理事を務めることで組織運営に深く関わる貴重な経験を積むことができました。会議や企画・運営、予算管理など幅広い業務を担当し、その中でチームワークや計画性、調整力などの重要性を強く感じました。来年度に向けて、様々な問題にも迅速に対応できる体制を整えることが重要だと考えています。そのためには、今年度の経験を活かし、連携を強化し、より効率的な運営を目指したいと思っています。また、皆様から頂いた意見やフィードバックを積極的に取り入れ、より良い意思決定をサポートすることが組織の成長と発展に繋がると信じています。誠実さと柔軟性を持ってまいります。

特任理事 清水 敬介



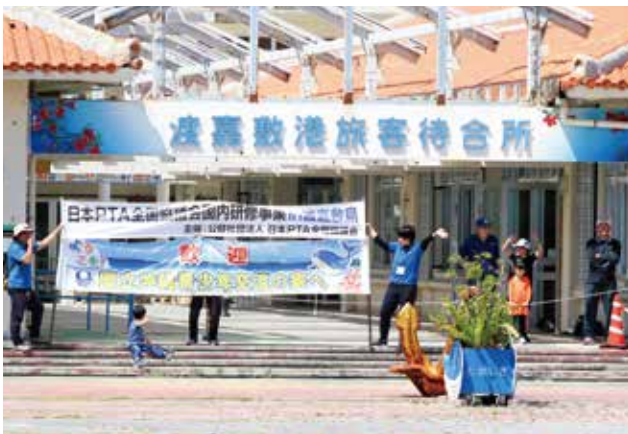
1年を振り返って！

令和5年度公益社団法人日本PTA全国協議会特任理事を務めて参りました。清水敬介と申します。この1年間は中々落ち着いた状態での運営ができたように感じています。共に努力し、より良い組織を築いていくために、引き続き精進してまいります。新型コロナウイルスが落ち着いた生活を取り戻しましたが、PTAを取り巻く環境や個々の価値観の変化等様々、重なり本当に苦慮した1年となりました。日本最大の社会教育関係団体として全国750万人の会員の皆様のため、そして大切な子供たちの明るい未来のために活動して参りますので、どうか引き続きご支援・ご協力をお願いいたします。



参加者全員での記念撮影

令和5年度国内研修in渡嘉敷村に参加して



沖縄青少年交流の家のスタッフが歓迎幕で出迎える

出発前と帰宅時では子供たちの様子が変わって、とても楽しそうに出来事を話してくれ、多くの保護者から感謝の言葉を事務局にいただきました。この素晴らしい事業を今後も続けていきたいと思

令和6年3月26日から30日の4泊5日で、全国から集まった中学2年生の男女101人が参加し、沖縄県糸満市ならびに島尻郡渡嘉敷村において、国内研修事業を開催しました。

当事業は、体験活動を通じて社会環境や自然環境への視野を広め、子供たちが将来、日本のリーダーとして、あるいは地元や地域を担う人材になってほしいという願いを込めて開催しています。

日本PTA全国協議会から後藤会長をはじめとする4人の役員が引率いたしました。ここで、引率された役員の方々に参加された感想を伺いました。

■会長

後藤 豊郎

今年度は、事業を委託している独立行政法人国立青少年教育振興機構の担当者が代わったことや、日本PTAの役員スタッフが半減したことなどもあり、研修の内容も再考しての企画となりました。参加した子供たちに沖縄大学の学生リーダーの皆さまが寄り添い、受け入れ施設の職員の皆さまや沖縄県PTA連合会役員の皆さまのお力添えを頂きながら、子供たちにとっては主体性を持って失敗を恐れずにチャレンジすることのできる研修を開催することができました。

令和5年度も、全国の中学2年生を対象に沖縄県の青少年施設を利用し、国内研修事業が開催されました。今までに積み重ねてきた国内研修事業の経験を役立て、子供たちが主体的・対話的で深い学びができるように準備をしてきました。

■副会長兼実行委員長

比嘉 里奈



みんな揃って「バンザイ」

らしい事業を今後も続けていきたいと思



全国各地から集ってのキャンプファイヤー

今年度は101人の参加者という事で、コロナ前に戻った研修となりました。全国各地から集まった中学2年生たちはそれぞれが目標と希望を持って参加したと思

■理事

佐藤 博之



沖縄の伝統芸能の慶良間太鼓に挑戦

それぞれの成長により、多くの子供たちの成長により良い影響があると思っております。

この国内研修事業に参加して、子供たちは、人と繋がることの大切さや自分の知らない世界が広がっていることを知ったことと思

空港での迎え入れや送り出し、また、本研修の様子を保護者にお知らせする安心メールの発信等を担当しました。

■理事

太田 敬介



シーカヤックで海上散歩

この研修に参加したことはゴールではなく、これからどのように具体的な行動に移していくかが最も大切なことです。

この研修に参加したことはゴールではなく、これからどのように具体的な行動に移していくかが最も大切なことです。



大型カヌーに乗り、ケラマブルーの海に大興奮

全国各地から那覇空港に到着した子供たちは、少し緊張しながらも、期待と不安が入り混じった複雑な表情を見



75周年記念式典の様相

それを受け、当時の文部省(現・文部科学省)がPTAの普及を積極的に進めたことが日本のPTAの始まりです。その後、全国の小・中・高等学校においてPTAが組織され、やがて市区町村郡や



連合国軍最高司令官総司令部(GHQ)が置かれた東京・日比谷の第一生命ビル

1946年、戦後日本の教育の民主的改革を進めるためにアメリカの教育使節団が、基本方針のひとつとして「PTAの設立と普及」を掲げ来日しました。

都道府県単位の連合組織や全国組織もつくられ、今日に至っています。GHQ(連合国軍最高司令官総司令部)は「教育委員会の教育長は、児童生徒の福祉増進および教育計画の改善のために、父母と先生の会に激励を与える義務を有する」という教育使節団の基本方針を基に、一般成人に対して民主主義の理念



米国外務館に初めて訪問した昭和天皇とマッカーサー元帥との写真

戦後日本の教育の民主的改革を！

日本PTA全国協議会は昨年11月24日に創立75周年記念式典を開催しました。今号では、75年のPTAのあゆみを会員が共に確認し合うことで、時代の変化に伴い、子供たちの未来を考えるために、PTAを進化させ続けて行くことの重要性を改めて考えたいと思います。

子供たちの未来を考えるために、PTAを進化させ続けて行く、日本PTA全国協議会75年のあゆみ

令官総司令部)は「教育委員会の教育長は、児童生徒の福祉増進および教育計画の改善のために、父母と先生の会に激励を与える義務を有する」という教育使節団の基本方針を基に、一般成人に対して民主主義の理念を啓蒙することが、新生日本の政治基盤形成上、あるいは占領政策の目的達成上不可欠の要件であるとして重視し、そのための有効な方途としてPTAの設立と普及を奨励する方針を掲げました。

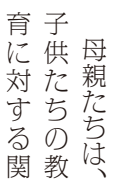
具体的に推進したCIE、文部省、地方軍政部



東京・日比谷に開設されたCIE図書館の開架雑誌室

GHQの方針を具体的に推進したのは、中央においてはCIE(民間情報教育局)、地方にあつては地方軍政部でした。CIEは文部省を通じて、全国的にPTAの指導・支援を行っていました。地方では、地方軍政部の指導の影響が大きく、地方軍政部は制度的に

はアメリカ太平洋陸軍総司令部に属していますが、実質的にはGHQの下、地方段階で占領政策の実施にあたり、その状況を監視する機関として機能していました。



アリス・マクレラン・バーニーさん(写真右)



フィービー・アパーソン・ハーストさん(写真左)

現代の学校教育において欠かせない存在となったPTAの歴史は、19世紀のアメリカ合衆国が起源となります。PTAの始まりは、1897年にミズーリ州セントルイスで結成された「National Congress of Mothers(全国母親会議)」に遡ります。この組織は、当時の母親であるアリス・マクレラン・バーニーさんとフィービー・アパーソン・ハーストさんが子供たちのための学校教育を促進し、子供たちの福祉を考えることを目的として開いたことから始まりました。

その後、全国的に広がりをみせ、1908年には全国の各州の母親会議が結集し「National Congress of Mothers and Parent-Teacher Associations(全国母親会議と親と教師の協会)」が結成されました。これにより、親と教師の協力を基本理念としたPTAが発足したのです。



「全国母親会議と親と教師の協会」結成時の記念写真

親と教師が協力する学校支援組織の起源

合のために学校施設の利用を促進することが掲げられており、地方でのPTAの普及・指導に大きな役割を果たしました。特に、京都府、大阪府、福岡県などの西日本にその影響が顕著で、PTA組織の模範として「育友会規約」が地方軍政部の指導によって作成されるところもありました。

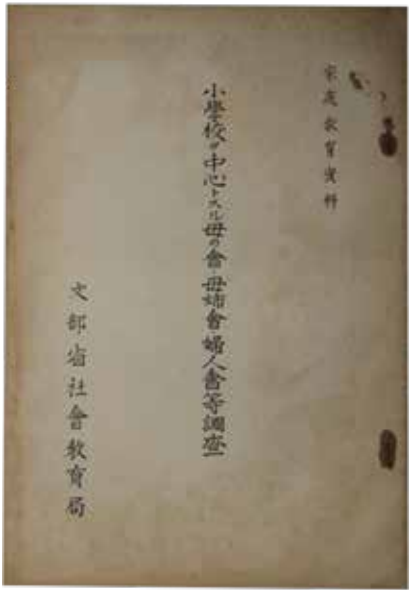
CIE、文部省、地方軍政部、地方社会教育担当者などによるPTA設立の勧奨活



アメリカ陸軍記念日に東京・日比谷のGHQ前をパレードするアメリカ第1騎兵師団の機械化部隊

動により、各地域でPTA設立の気運が高まり、一気に組織化が図られるようになりました。

日本には戦前にPTAの前身「母の会」があった



小学校を中心とする
「母の会・母姉会・婦人会等調査」
家庭教育資料

現在のPTAの前身ともいえる「母の会」が、戦前の日本にはありました。

母の会とは、子供の母親の修養と教育活動への奉仕のためにつくられた組織で、毎月の例会、親子連れ遠足、学校行事に参加(運動会、遠足)、学校課外指導部の援助(理科部や図書部、音楽部)等、国防献金や陸軍病院の慰問など、戦時色の強い活動もありましたが、現在のPTA活動と共通している内容が数多くありました。

母の会は、1920年代から「母の会」や「母姉会」が各地で組織されました。小学校の授業料が無償化されたのは1900年(明治33年)。就学率が95%を超えたのは1905年です。「母の会」が生まれ始めたのは、子供が小学校に通うのが当たり前になった少し後、と言えます。

1939年には、文部省は「家庭教育の振興と小学校母の会の活用」に就て」というパンフレットを発行するなどの活動により、「母の会」の設置を推奨しましたが、全国の国民学校に「母の会」があったわけではなく、取り組みも学校によってばらつきがありました。

保護者組織が全国的に広まったのは、戦後GHQによりPTAという名前が広まったことからなります。



日本PTA新聞第1号

着実に全国に拡大したPTA



日本PTA結成式

文部省の「父母と先生の会委員会」による「PTA結成の手引き」が公表されてから1年後の昭和23年(1948年)4月には、全国のPTA設置状況は小・中学校とも早くも7割近くに達しており、制度発足が遅れた高校でも4割を超えていました。

ただし、学校後援会、父兄会などの旧来の組織のみがある学校、あるいはそれと新組織が併存している学校もかなり(3割ほど)残っている状況も見られ



第1回全国大会(三重県・宇治山田市:現在の伊勢市)

たこのことです。

日本父母と先生の会全国協議会は、昭和28年(1953年)8月に、三重県宇治山田市において、第1回全国PTA研究協議会を開催しました。1300人の参加を得て、両親教育促進の方策、連絡協議会の運営、

団体の名称は、昭和28年「日本PTA全国協議会」に、翌29年(1954年)8月には、「日本PTA協議会」に、更に、昭和32年(1957年)8月には再び「日本PTA全国協議会」へと変更になっていきます。



昭和31年米国PTA視察団

子供たちの教育に関する問題や課題に取り組む

を行っています。

また、PTAは親と教師の協力を通じて、子供たちの教育に関する問題や課題に取り組みます。例えば、子供たちの学習環境や学校のカリキュラムについての提言や改善を行ったり、子供たちの福祉や権利を守るための取り組みを行ったり、歴史的に様々な社会的課題にも取り組んできました。例えば、人種差別に対する取り組みや、子供たちの権利や福祉を守るための社会運動にも参加しました。特に、アフリカ系アメリカ人の子供たちの人種差別に対する教育機会を確保



成人教育全国研究大会(昭和36年)

PTAの活動は、学校の教育プログラムや学校施設の改善を支援することを目的としています。たとえば、PTAは学校の教育予算を確保するためのロビー活動や、学校行事の運営・支援、学校の施設や設備の改善、子供たちの健康や安全を考えた取り組みなど

みを行ったり、歴史的に様々な社会的課題にも取り組んできました。例えば、人種差別に対する取り組みや、子供たちの権利や福祉を守るための社会運動にも参加しました。特に、アフリカ系アメリカ人の子供たちの人種差別に対する教育機会を確保

するための取り組みが盛んでした。また、女性参政権運動にも関与し、女性の社会的地位向上や女性の参政権を支援するなど、社会的な変革を促進する活動も行いました。

PTAは、その活動を通じて学校と地域社会を結びつける重要な役割を果たしています。PTAは、学校の教育プログラムや施設の改善に関する意見を学校や地域の関係者に提供し、学校の運営に参画することで、子供たちの教育に対する親の



第94代稲葉修文部大臣と懇談する中富文子会長(当時)

子供たちの教育を支援する組織PTA

長を支援します。



第71回全国大会(広島大会)での歓迎アトラクション

PTAは、その活動の幅広さと多様性を持ちながら、親と教師の協力を基本理念とし、子供たちの教育を支援する組織として、現代の学校教育において欠かせない存在となっています。そして、PTA

PTAは地域社会との連携を深めるための様々なイベントや活動を企画し、学校と地域のコミュニティを結びつけます。例えば、学校祭や文化祭の開催、社会貢献活動の実施、地域のイベントへの参加などがあります。これにより、地域社会との連帯感や協力関係を強化し、子供たちの学びや成

の歴史は、親と教師が協力して子供たちの教育を支援するために、長い年月をかけて発展してきた歴史でもあることが分かります。

PTAは、子供たちの教育を第一に考え、親と教師が協力して学校教育を支援する組織として、今後も重要な役割を果たし続けます。

PTA活動の歴史を振り返る

親と教師の協力関係を深めるための取り組み



子供たちの安全を守る活動

1950年代から1960年代にかけて、PTAは様々な社会的な課題に取り組み、例えば、公立学校の遅れている設備や教材の改善、特別教育の充実、栄養の改善、生活環境の改善など、子供たちの福祉を向上させるために活動しました。

また、PTAは教育政策に関する立場を発信し、政治的な活動も行いました。学校教育における予算や政策の決定に対して、親の声を届けるために政府や教育関係の団体との連携を図り、政策提言やロビー活動を行いました。これにより、PTAは教育政策に対して一定の影響を持つようになりまし

た。さらに、PTAは学校と家庭のコミュニケーションの重要性を強調し、親と教師の協力関係を深めるための様々な

取り組みを行いました。親と教師の間のコミュニケーションを促進するための講演会やセミナーの開催、学校と家庭の連携を図るための報道活動や情報発信の強化などがあります。これにより、親と教師が連携し、子供たちの教育におけるパートナーシップを深めることができました。

学校や地域との連携を強化するための活動を展開

の祭りや行事への参加、地域の文化や歴史に関する学習会の開催、地域の福祉施設への支援活動などがあります。これにより、PTAは地域社会においても信頼される存在となり、地域と学校を結びつける架け橋の役割を果たしました。



学校の環境整備作業をするPTA

近年では、PTAは多様化し、時代の変化に合わせて新たな課題に取り組んでいます。例えば、ICT（情報通信技術）の発展に伴うデジタル教育の推進や、多文化共生を考えた異文化間の理解促進、子供たちのメンタルヘルスへの関心の高まりを受けた

また、子供たちの権利の保護や、いじめ対策、性教育、LGBTQ+などの多様性に対する理解と包括性を推進するなど、社会的な問題に対しても取り組んでいます。また、子供たちの学びをサポートするために、家庭学習の支援や学習支援プログラムの開発・実施、進路指導などの取り組みも行っています。



地域のニーズに合ったイベント開催

PTAでは学校や地域との連携を強化するための活動を展開しています。例えば、地域の祭りや行事への参加、地域の文化や歴史に関する学習会の開催、地域の福祉施設への支援活動などがあります。これにより、PTAは地域社会においても信頼される存在となり、地域と学校を結びつける架け橋の役割を果たしました。

携を強化するための活動も展開しています。例えば、学校行事への協力やボランティア活動の推進、学校施設の整備や改修の支援、地域のニーズに合ったイベントやプログラムの開催、地域のリーダーシップの育成などがあります。これにより、学校と地域の連携を深め、地域の子供たちの教育をサポートする役割を果たしています。

社会的な問題に取り組み、地域社会との連携を強化



子供たちの教育をサポート

PTAは政策提言やロビー活動を通じて、教育政策に対しての発信力を持ち続けています。政府や教育関係の団体との連携を図り、教育予算やカリキュラムの見直し、学校の安全対策の強化などについての提言を行って

います。子供たちの教育をサポートし、学校と家庭の連携を促進するだけでなく、社会的な問題にも取り組み、地域社会との連携を強化するなど、幅広い分野での活動を展開しています。



国際理解教育の推進



デジタル教育の推進

そして、時代の変化に合わせて、子供たちと地域の未来を考えるために、PTAは、地域社会との連携を強化する取り組みとして、地域の文化や伝統を活かしたイベントや行事の開催、地域の産業や職業に関する情報提供や就労支援のプログラムの実施なども行っています。これにより、地域の人々との交流を促進し、子供たちの地域への理解や地域貢献の意識を高めることを目指しています。

中央教育審議会答申「令和の日本型学校教育」の構築を目指して



協働的な学びとしての体験活動を推進

文部科学省の中央教育審議会が2021年に公表した答申「『令和の日本型学校教育』の構築を目指して」が、子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現に向けて、具体的なあり方が示されました。

一般社団法人地域創生応援団と業務委託を締結

全国のPTA活動や学校を支援し、社会教育及び生涯教育の一助を担い、児童・生徒の健全育成のためにPTA活動の充実および学校支援をはじめ、地域事業活動を行う企業へのサポートを実施している一般社団法人地域創生応援団と業務委託を締結したことにより、企業の社会貢献活動へのアドバイザーとしての役割を担っています。

令和の日本型学校教育は、今の学校教育環境が抱える課題に対応するために、「子供の側に立ち、子供を主語にする」という学ぶ側からの視点で捉え直し、全ての子供の可能性を引き出す「個別最適な学び」と「協働的な学び」の実現を目指しています。中教審の答申では、そのうえで望ましい「子供の学び」教職員の姿「子供の学びや教職員の姿」を支援する環境などが具体的に示されています。

日本PTAの主なあゆみ(1946年～2018年)

昭和

21(1946)年12月

文部省は各都道府県社会教育所管課長会議で、PTAの趣旨を説明し、積極的普及を奨励した。

23(1948)年6月27日

全国PTA協議会結成総会を開く。以降、結成準備委員会の開催を重ねる。

27(1952)年10月14～16日

日本父母と先生の会全国協議会結成大会(第1回総会)を東京で開催する。

28(1953)年8月30日

第1回PTA全国研究大会が三重県宇治山田市(現・伊勢市)において開催される。

28(1953)年12月25日

機関紙「日本PTA」を創刊する。

29(1954)年8月25～26日

日本PTA第3回年次総会(東京)で、会の名称を「日本PTA協議会」と改称する。

30(1955)年11月29～30日

第3回日本PTA全国研究大会(熱海市)において、優良PTAに対して文部大臣が表彰を行う。この大会以後、日Pの推薦する優良PTAに対し、文部大臣の表彰が行われることとなる。

32(1957)年8月26～27日

日本PTA第6回年次総会(東京)で、会の名称を「日本PTA全国協議会」と改称する。

43(1968)年5月27日

日本PTA創立20周年記念式典を東京(国立教育会館)で挙行(昭和23年6月の結成準備委員会より起算)。



第20回全国大会

46(1971)年7月29日

国庫補助金1000万円要望計画書を文部省に提出した。

48(1973)年10月27日

日本PTA創立25周年記念式典を九段会館で挙行。常陸宮同妃両殿下がご臨席される。

53(1978)年2月23日

国際交流事業「第1回PTA海外教育事情視察」を初めて実施。アメリカブロックに代表15名を派遣する。

53(1978)年5月13日

日本PTA創立30周年記念式典を国立教育会館で挙行。

54(1979)年7月22日

第1回PTA広報紙コンクール表彰式を挙行。

58(1983)年11月11日

日本PTA創立35周年記念式典をホテル・ニューオータニで挙行。皇太子同妃両殿下がご臨席される。



35周年年次表彰式

60(1985)年4月23日

日本PTA臨時総会を都道府県会館別館で開催。「社団法人日本PTA全国協議会」定款原案が承認決定される。

60(1985)年6月26日

社団法人日本PTA全国協議会設立許可書を文部省で受領する。

61(1986)年3月26日

第1回日中友好「少年少女の翼」出発する。

63(1988)年11月16日

日本PTA創立40周年記念式典をホテル・ニューオータニで挙行。皇太子殿下の御名代として徳仁親王殿下がご臨席される。



40周年年次表彰式

平成

2(1990)年3月30日

第1回子ども国際レインボー便贈呈式を開催する。

5(1993)年11月18日

日本PTA創立45周年記念式典をホテル・ニューオータニで挙行。秋篠宮同妃両殿下がご臨席される。

8(1996)年1月25日

(社)日本PTA全国協議会事務局、新事務所(村松ビル)へ移転。

10(1998)年11月18日

日本PTA創立50周年記念式典をホテル・ニューオータニで挙行。皇太子同妃殿下がご臨席される。



50周年年次表彰式

11(1999)年3月30日

「日本PTA創立50年記念誌－新しい時代を拓く－」を作成する。

11(1999)年10月9日

「PTA国際シンポジウム」開催(広島市)。

12(2000)年3月30日

「学校と家庭・地域の架け橋PTA－連携をどう進めるか－」作成、「子供インターシップ事業実施報告書」を作成する。

13(2001)年6月19日

大阪教育大学附属池田小学校の事件に関し、「報道と取材のあり方のお願い」を日本民間放送連盟に提出する。

15(2003)年6月23日

日本PTA全国協議会事務局、東新橋から赤坂の自社ビルへ移転する。

15(2003)年11月19日

日本PTA創立55周年記念式典をホテル・ニューオータニで挙行。秋篠宮同妃両殿下がご臨席される。

17(2005)年1月25日

「PTAの児童虐待防止活動の実践事例集」作成、「たのしい子育て全国キャンペーン作品集」を作成する。

19(2007)年10月15日

「PTAの『安全互助共済』に対する保険業法の適用についての要望書」を自由民主党政調会長に提出する。

20(2008)年11月20日

日本PTA創立60周年記念式典をホテル・ニューオータニで挙行。皇太子同妃両殿下がご臨席される。



創立60周年記念式典に皇太子同妃両殿下がご登壇



創立60周年記念式典に皇太子同妃両殿下がご臨席される

21(2009)年3月11日

「PTA共済の制度共済化の早期実施についての要望書」を文部科学大臣に提出する。

22(2010)年4月2日

「PTA共済の制度共済化の早期実施についての陳情書」を内閣官房長官に提出する。

24(2012)年7月25日

「いじめ問題への適切な取り組みについてのお願い」を文部科学大臣に提出する。

25(2013)年11月19日

日本PTA創立65周年記念式典をホテル・ニューオータニで挙行。秋篠宮同妃両殿下がご臨席される。



創立65周年記念式典に秋篠宮同妃両殿下がご臨席される

26(2014)年3月

教育支援助成事業における就学助成金を支給する。

26(2014)年7月～11月

「心のきずな61教育支援基金」支援事業を実施する。

29(2017)年8月

「となりのPTAの実践 このPTAがすごい！」全国活動事例集を発行する。

30(2018)年11月21日

日本PTA創立70周年記念式典をホテル・ニューオータニで挙行。皇太子同妃両殿下がご臨席される。



創立70周年記念式典に皇太子同妃両殿下がご臨席される

三行詩募集概要

令和6年度

「楽しい子育て全国キャンペーン」

家庭で話そう！我が家のルール・家族のきずな・命の大切さ

三行詩実施要綱

1 趣旨 都市化や核家族化、少子化など、子育てや家庭教育を支える地域の環境が変化している。そこで、改めて家族の会話やコミュニケーションから育まれるきずな・家庭のルール、「早寝早起き朝ごはん」といった子供たちの基本的な生活習慣づくりなど、家庭教育の大切さや命の大切さについて、家族で話し合い一緒に取り組むことを社会全体に呼び掛けていくため、これらをテーマとする三行詩を募集し、表彰を行う。

2 主催 主催／公益社団法人日本PTA全国協議会
後援／文部科学省、こども家庭庁、「早寝早起き朝ごはん」全国協議会

3 内容 募集対象：小学生・中学生と保護者、教職員等
募集内容：「家庭で話そう！我が家のルール・家族のきずな・命の大切さ」に関する三行詩

●三行詩とは、三行程度の短文の意味合いであり、必ずしも三行である必要はなく、俳句のようなものでも構わない。●家族の会話やコミュニケーションから育まれるきずなや家族のルール、子供たちの基本的な生活習慣づくりなどの家庭教育、一人一人の命のつながりや大切さをテーマとして短文で表現したものであること。●家庭での日常の出来事や、学校や地域でのエピソードをもとに、家族で話し合った上記テーマに沿った作品であること。●小学生部門、中学生部門、一般部門（保護者・教職員）部門ごとに募集をする。

4 募集方法 ①公益社団法人日本PTA全国協議会のホームページにて掲載
②地方協議会を通じて、各小学校、中学校PTA等にて募集
③教育委員会等を通じて、その他の各小学校、中学校等にて募集

5 募集期間 令和6年5月7日(火)～令和6年6月14日(金)

6 応募方法 募集チラシの裏面にある「募集用紙」、又は公益社団法人日本PTA全国協議会ホームページに掲載する所定の「応募用紙」、あるいは、A4サイズの用紙に、氏名(ふりがな)、年齢(学年)、住所、電話番号、学校名等、三行詩を記入のうえ、以下の応募先に提出する。

<子供が公立学校に在籍する場合> 子供の在籍する学校等へ提出。各学校PTAが取りまとめをし、各所属の都道府県・郡・市・指定都市のPTA連合会・協議会等へ提出する。地方協議会において、応募のあった作品の審査を行い、小学生・中学生・一般の各部それぞれ5点を上限として、7月22日(月)までに公益社団法人日本PTA全国協議会に推薦する。

<その他の場合(私立学校や国立大学法人附属学校に在籍・所属先が不明の場合等)> 各学校PTA等が取りまとめをし、審査を行い、小学生・中学生・一般の各部それぞれ5点を上限として、7月1日(月)までに公益社団法人日本PTA全国協議会に推薦する。

7 発表 優秀作品は、選定後速やかに作品の応募者に通知するとともに、公益社団法人日本PTA全国協議会ホームページにて発表する。また、優秀作品を掲載したカレンダーを作成する。

8 表彰 優秀作品には賞状を贈呈。
<作品の活用等> 全ての優秀作品の著作権は、公益社団法人日本PTA全国協議会に帰属する。優秀作品については、公益社団法人日本PTA全国協議会作成の資料やパンフレット、各種イベント等における広報・啓発活動において幅広く活用予定。

問合せ先

子供が公立学校に在籍する場合

在籍する学校PTA、又は在住の都道府県・指定都市のPTA連合会・協議会

その他の場合

□ 公益社団法人日本PTA全国協議会 事務局
□ 東京都港区赤坂 7-5-38
□ TEL:03(5545)7151 □ FAX:03(5545)7152

募集要項及び応募用紙掲載ホームページ

公益社団法人日本PTA全国協議会

<http://www.nippon-pta.or.jp>

4つの特徴

① スマートな学び

参加者全員が1会場に集結して1つのカリキュラムを学ぶ。

② アクティブラーニング

聞いて終わりではない。IT活用による意見交換やワークによって自分のアイデアを生み出そう。

③ 縁を感じ、縁を活かす

全国から集まるたくさんの仲間と学びや体験を共有するだけでなく、交流を通して縁をつむごう。

④ ウェルビーイングへの第一歩

ウェルビーイングを学ぶだけでなく、自分の生活に落とし込むアクションプランを各自でつくろう。

シンボルマーク

多様性と川崎市の7区を表すレインボーカラーと、縁でつながる参加者をパズルのピースに見立てて表現しました。



第46回 全国小・中学校PTA広報紙コンクール実施要項

1 趣旨

日本PTA全国協議会傘下の公立小・中学校で発行するPTA広報紙作品を広く募集し、優秀作品を表彰・公開することにより、PTA広報活動の活発化を促進し、PTA活動の一助となることを目的とする。

2 主催

□ 公益社団法人日本PTA全国協議会
□ 協賛／日本教育新聞社、教育家庭新聞社
□ 後援／文部科学省

3 応募の対象

令和5(2023)年4月から令和6(2024)年3月までに発行されたすべての号を1部送付。※年1回以上発行されたもの(令和3年度募集より変更)現状のままで送付(複製やコピーは不可、CD不可、補強のための表紙などは付けない)。また、令和6年度募集より、SNSの単独利用を除く、ホームページ上で閲覧するものを「WEB版」として応募を受け付ける(詳細は下段の補足資料を参照)。

4 応募期間

①各単位PTAは、令和6年5月24日(金)までに、各地方協議会に送付。
②各地方協議会は、第一次審査を終えた作品及び別紙を、令和6年6月21日(金)までに、公益社団法人日本PTA全国協議会事務局へ送付。

5 審査の流れ

①各地方協議会で第一次審査を行い小学校PTA6点以内、中学校PTA4点以内を選考。
②各地方協議会は第一次審査した作品を公益社団法人日本PTA全国協議会事務局に送付する。
③公益社団法人日本PTA全国協議会は第一次審査で選ばれた作品について第二次、第三次、最終審査の3回の審査を行う。
④「WEB版」は、各地方協議会で第一次審査を行い3点以内で選考したものを、公益社団法人日本PTA全国協議会において、最終審査を行う。

6 審査基準

PTA広報紙のもつ目的・使命・記事の内容・編集方法・レイアウト・見出し・文章などについて総合的に審査する。

7 審査委員

文部科学省、学識経験者、公益社団法人日本PTA全国協議会、日本教育新聞社、教育家庭新聞社

8 優秀作品の賞

文部科学大臣賞、公益社団法人日本PTA全国協議会会長賞、日本教育新聞社社長賞、教育家庭新聞社社長賞、特別賞(企画賞・写真賞・レイアウト賞)、佳作、WEB版日本PTA全国協議会会長賞

9 表彰式

表彰式は、令和6年度 年次表彰式で行う予定。
【令和6年11月15日(金)予定】

10 その他

● 応募作品は返却しない。
● 入賞作品は、日本PTA機関紙及び日本教育新聞に掲載する予定。
● 受賞作品については「第46回優秀広報紙作品集」として発刊する予定。

全国小・中学校PTA広報紙コンクール「WEB版」の募集について

「WEB版」募集について、以下をご確認の上ご応募ください。

1

審査基準について 広報紙コンクールWEB版審査基準に準拠する。PTA広報紙WEB版のもつ目的・使命・記事の内容・読みやすさ・見やすさ・使いやすさなどについて総合的に審査する。

2

優秀作品の賞について WEB版日本PTA全国協議会会長賞として表彰を行う。なお、小・中・一貫校・義務教育学校PTA等の部門は設けない。

3

要件について 以下の要件を満たしたものを「WEB版」審査対象とする。

- ①ブラウザで表示されるページ内に団体名(PTA名)が正しく明記されているもの。
- ②団体内で広報物として担当者や更新ルールを定める等、管理されているもの。※有志のみで不定期に更新されるものは対象としない。
- ③各地方協議会の求める資料(応募用紙等)が提出できるもの。
- ④個人情報について必要な配慮が行われているもの。※紙で発行した広報紙をPDF化し、ホームページ上で公開しているものは、紙面広報紙の審査対象とする。

4

提出方法 所定の応募用紙に必要事項を記入して提出する。なお、発信方法により以下を記載する。ホームページのタイトル、URL(https://からはじまるもの)。

5

各地方協議会での審査について 各地方協議会で第一次審査を行い3点以内で選考。

第45回全国小・中学校広報紙コンクール優秀広報紙作品集の表紙

大会スローガン
ウェルビーイングの実現を、
川崎の地から
～活かそう「縁」の力～

シンボルマーク

多様性と川崎市の7区を表すレインボーカラーと、縁でつながる参加者をパズルのピースに見立てて表現しました。



4つの特徴

① スマートな学び

参加者全員が1会場に集結して1つのカリキュラムを学ぶ。

② アクティブラーニング

聞いて終わりではない。IT活用による意見交換やワークによって自分のアイデアを生み出そう。

③ 縁を感じ、縁を活かす

全国から集まるたくさんの仲間と学びや体験を共有するだけでなく、交流を通して縁をつむごう。

④ ウェルビーイングへの第一歩

ウェルビーイングを学ぶだけでなく、自分の生活に落とし込むアクションプランを各自でつくろう。

8月23日(金)・24日(土)開催

第72回 日本PTA
全国研究大会 川崎大会
第56回 関東ブロック
研究大会 川崎大会



メインテーマ

- ① 社会の大きな変化を学び、進化を考えるPTA活動
- ② 自己肯定感を高め合い、活力あるPTA活動
- ③ 誰も取り残さない、居場所を大切にすPTA活動